



げんげんどう

特集

救急医療

命をつなぐワンチーム

2026.4

No.

106

- ① 表紙：リハビリテーション科
- ② 入社式 新人オリエンテーション
- ③ 防災訓練 院内看護研究発表会 講演会のお知らせ
- ④⑤ 特集 救急医療 一命をつなぐワンチーム
- ⑥ 部署紹介
- ⑦ 副院長就任挨拶 退職医師挨拶 学術集会
- ⑧ 感染対策コラム 健診について

入社式・新人オリエンテーション



2026年度 新入職員

新入職員を迎えて

総務部主任 佐生 佳代子

今年も新たな一歩を踏み出す新入職員を迎える季節となり、4月1日に入社式が行われました。池田院長からの「今日から皆さんも地域医療を支える当院の一員です」という言葉に、緊張と希望に満ちた新入職員の背筋がより一層ピンと伸びたように感じました。代表挨拶では看護師の鈴木杏実さんが「互いに学び、支え合い、成長していきたい」と決意表明があり、その思いを職員全員で応援するとともに、チーム医療の一員として高め合っていきたいと思えます。



AIが普及し、驚くほど便利になった今、業務の時短や効率化が求められる時代となりました。そのような時代だからこそ、人そのものが提供するぬくもりのある看護や、コミュニケーションから生まれる相手への優しさが重みを増すのだと思います。新入職員の皆さんが、新しい環境に馴染み、フレッシュな力で活躍される姿を楽しみにしています。

新人オリエンテーション

看護部長 鳥飼 紀子

入社式に続き3日間にわたって新人オリエンテーションが行われました。病院の理念や基本方針、各部署の役割、院内ルール、救急対応、安全管理、感染管理体制などについて、実践を交えながら説明があり、医療人としての基礎知識を共有する貴重な機会となりました。マナー講師の鈴木智子先生からは、挨拶の仕方や電話対応について、すぐに現場で役立つマナーを学びました。



また、BLS(一次救命)の研修では、反応の確認・応援要請・呼吸の確認・胸骨圧迫・AEDの使用と、一連の流れを体験した参加者から「実際の場面をイメージできた」「迷わず行動することの大切さを学んだ」といった声が聞かれ、実践的な学びにつながりました。緊張した面持ちで臨んでいた新入職員たちも徐々に表情が和らぎ、積極的に参加する姿が印象的でした。安心して成長できるよう、職員一同で応援していきたいと思えます。

2026年度 新入職員名簿 (2026年3月27日 現在)

氏名	職種
鈴木 杏実	看護師
坂下 心那	
吉崎 陽	
溝上 琉那	
坂本 麗	
砂山 莉穂	
中條 真愛	
小林えりな	
于 憲紅	
林 真寿	
津川 采花	
城下 菜	

氏名	職種
山口 里音	看護師
石坂 千夏	
藤平しのぶ	
一戸 良子	
古城 彩華	准看護師
井上 未来	診療放射線技師
高梨 翔太	理学療法士
稲村 孝翼	臨床工学技士
渡邊 綸華	
伊藤 悠磨	
坂爪 勇斗	
森 裕紀子	栄養士

氏名	職種
石川 亜衣	事務員
吉岡 純江	保育士
榎本まゆみ	調理師
鈴木千恵子	調理員
木村美智子	
木村 恵	主任介護支援専門員
本吉 明美	
小川 喜由	介護支援専門員
櫻井 澄江	
鈴木 有里	看護師
小川 典子	社会福祉士
福原喜美代	事務員

夜間を想定した 消防訓練を行いました

災害対策委員会委員長

総務部部長
石崎 照彦

3月21日(土)夜間を想定した消防訓練を行いました。

今回の訓練では深夜0時に新館2階デイルームで火災が発生したことを想定し、出火後20分間の初動行動に重点を置き訓練を実施しました。消防設備の操作に戸惑う場面、階段の垂直避難でエアストレッチャーの操作に苦勞する場面などもありました。訓練を振り返り参加者から「暗い深夜の時間帯に少数の職員で効率よく避難誘導ができるのか」「避難器具やヘルメットなど防護具の適正な使用方法を身につけなければならない」など多くの意見が出ました。今後も訓練を重ね皆さまが安心して利用することができる病院でありたいと考えております。

災害対策の第一歩は、被害をイメージすることから始まると言われます。皆さまにおかれましても日頃から防災意識を高め、災害に備えていただければと思います。



第36回 院内看護研究発表会開催



ご指導いただいた石塚真美先生と発表者

3月21日に開催された院内看護研究発表会では、現場での意欲的な取り組みが紹介され、看護の発展と質向上につながる内容でした。

《演題》

「透析看護師を対象としたユマニチュード学習会の効果」

看護師 柳田綾子

「SOC(首尾一貫感覚)を用いた多重業務に対応する看護師の適応に関する実態調査」

看護師主任 山田木綿子

「A病院における泡ベーターFを使用した陰部ケアに関する現状調査」

感染管理認定看護師 看護師長 永塚 藍

今年度開催予定の 講演会のお知らせ

- 糖尿病教室 当日参加可能
4月25日(土)
14:00~16:00
「高齢者糖尿病~セカンドライフを楽しむために~」
荻野副院長講演
- ふれあい看護体験
7月~8月予定
千葉県看護協会ホームページ
「看護職を目指す方へ」から
お申込みください
- 腎代替療法セミナー
7月予定
お申込みは後日、院内掲示をご確認ください

学びを、これからのケアに



く、患者さんが病院という環境の中でも「自分らしさ」を感じ、笑顔で過ごしていただけるよう日々の学びに励み、より一層心を通わせる医療の実践を目指してまいります。

これは認知症ケアをはじめ、あらゆる看護・介護の場面で「あなたは私の大切な存在です」という想いを伝えるための魔法の「コミュニケーション術」です。技術の核となるのは、「見る」「話す」「触れる」「立つ」という4つの柱。

例えば、単に処置をするのではなく、患者さんとして寄り目を合わせ、穏やかな声で語りかけ、包み込むように触れる。こうした動作の一つひとつが、安心感と絆を築く鍵となります。

今はまだ技術を習得している段階ですが、一日も早く

心に寄り添うケア
「ユマニチュード」を学んでいます

当院では現在、患者さんの尊厳を支える優しいケアの技術「ユマニチュード」を職員一同で勉強しています。

玄々堂君津病院 副院長 工藤真司

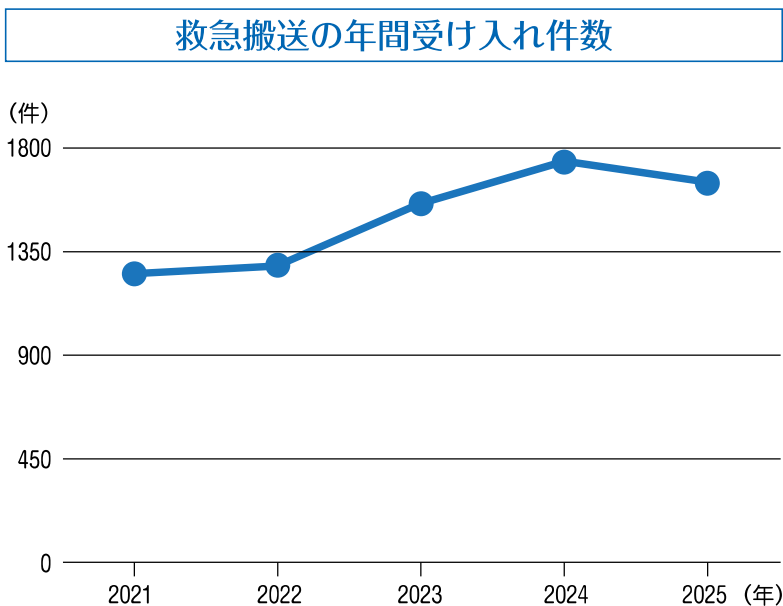
寒さも和らぎ春の訪れを感じる頃となりましたが、皆さまにおかれましてはいかがお過ごしでしょうか？日頃より当院の診療にご理解とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。今回は、当院が担っている救急医療の現状と、地域の皆さまに知っておいていただきたい地域における救急体制の仕組みについてお伝えします。

救急医療 命をつなぐワンチーム

当院は地域の皆さまの安心を支える医療機関として、かずさ地域の二次救急医療を担っています。二次救急とは、専門的な治療が必要となる可能性のある中等症な患者さんを主に受け入れる医療体制であり、救急搬送や急な体調悪化に対応する重要な役割を果たしています。脳出血、脳梗塞や心筋梗塞といった脳血管疾患や心疾患、緊急で手術が必要な腹部疾患等のさらに重度な患者さんは三次救急病院である君津中央病院へ紹介、搬送されます。

当院では年間およそ1,500台の救急搬送を受け入れており、急な病气やけがで不安を抱える患者さんに対して、迅速で適切な医療を提供できるよう努めています。この現場を支えているのは、医師一人ではありません。看護師が刻一刻と変わるバイタルサインを注視し、臨床検査技師が迅速に血液検査や尿検査をおこない、放射線技師が的確にレントゲンやCT撮影をし、薬剤師が適切に薬剤の確認、調剤等をおこない、早急な診察ができるよう事務ス

救急搬送の年間受け入れ件数



タッフがサポートするなど、院内スタッフが職種の垣根を越えて一丸となってようやく一人の患者を助けることができます。当院ではこの「多職種連携」の精度を日々高め、急な病气やけがで不安を抱える患者さんに対し、最善の医療を提供できるよう努め、地域の救急医療を支えています。

一方で、地域の救急医療は複数の医療機関が協力しながら運営されています。夜間や休日の救急診療は「輪番制」と呼ばれる体制で行われており、地域の病院が交代で当番を担当しています。当院が当



救急看護

救急室看護師の役割

副看護部長 早見 征子

当院の救急室では、地域の二次救急医療機関として、入院や専門的な治療を必要とする患者さんを受け入れています。突然のけがや体調の急変など、緊急に医療を必要とする方が安心して受診できるように、医師・看護師をはじめ多職種が連携し、迅速かつ適切な医療提供に努めています。

救急室には、発熱・腹痛・胸痛・意識障害・外傷など、さまざまな症状の患者さんが来院されます。私たちは症状や重症度、緊急度を評価し、治療の優先度を判断しています。そのため、来院された

番の口には可能な限り救急患者さんを受け入れる体制を整えています。当番口でない場合には、検査体制や人員配置の関係から十分な対応が難しい場合があります。そのため、症状や状況によっては当院での受け入れができず、当番病院をご案内することもあります。

地域の救急医療は、一つの病院だけで成り立つものではなく、地域全体の医療機関が役割を分担し

順番ではなく、重症度の高い患者さんから診療を行う場合があります。これはより多くの命を守るために必要な仕組みであり、地域の皆さまにもご理解いただきたい大切な医療の考え方です。

不安を抱えて来院される患者さんやご家族の気持ちに寄り添うことも、救急室の重要な役割です。限られた時間の中でも丁寧な説明や声かけを心がけ、少しでも安心していただけるよう努めています。

また、私たちは多様な状況に対応できるように、日頃から知識や技術の向上に励んでいます。情報共有の方法を見直し、救急対応のシミュレーションや処置技術の学習を継続することで、常に質の高い

ながら支えています。当院もその一員として、今後も地域の皆さまが安心して暮らせるよう、救急医療体制の充実に努めてまいります。急な体調不良やけがの際には、地域の救急医療体制をご理解いただき、適切な医療機関の利用にご協力いただければ幸いです。

医療を提供できる体制を整えています。さらに、救急外来で求められるスキルを習得するため、計画的な救急トレーニングを実施し、その学びを日々の実践に活かしています。こうした日々の取り組みの積み重ねが、安全で質の高い医療の提供につながり、チーム全体の成長を支える力になっていると実感しております。

緊張感の高い現場ではありますが、患者さんとの何気ない会話や「ありがとう」の言葉に触れる瞬間は、私たちにとって大きな励みとなり、心が温まるひとときです。

今後も地域の皆さまの安心を支える存在として、専門性を高めながら質の高い看護の提供に努めてまいります。



リハビリテーション科

リハビリテーション科 科長
森陽介

リハビリテーション科は理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、助手、介護スタッフ合わせ52名、各療法士の平均年齢は31歳、助手さんや介護スタッフと力を合わせて元気いっぱい業務にあたっています。リハビリテーション科は①玄々堂君津病院、②玄々堂木更津クリニック、③玄々堂じんクリニック、④玄々堂佐貫クリニック、⑤君津訪問看護ステーションの5か所で、医療・介護保険に適應したりリハビリテーションを提供しています。

玄々堂君津病院では医師の指示のもと、病気の発症早期から入院患者さんの身体機能回復のお手伝いをしながら退院支援にも積極的に取り組んでいます。外来では整形外科疾患や神経疾患等の患者さんに、痛みの緩和や身体機能維持につながる様子リハビリテーションを実施しています。



各透析施設では透析患者さんの身体機能維持を目的に、透析中の運動療法にも力を入れており、透析をしながらゴムバンドやボール、ペダル漕ぎ運動を行なっています。

また、今回のトピックスである訪問でのリハビリテーションではスタッフがご自宅に伺い、患者さん、利用者さんの状態・ご希望に合わせたプログラムでリハビリテーションを提供しています。

玄々堂君津病院以外の各クリニックでは(※2026年9月末までは君津病院でも営業)介護保険を利用した通所リハビリテーションを提供しており、送迎付きで利用者さん一人ひとりに合わせたリハビリテーションを提供しています。各クリニックでサービス提供の時間が異なりますが、1〜2時間、3時間、6〜7(8)時間のコースを用意していますので、要介護認定者で通所リハビリテーションのご希望のある方は担当のケアマネージャーにご相談いただくとご利用案内が可能となります。

以上、リハビリテーション科では医療・介護の連携を図りながら患者さん・利用者さんのご希望・身体状況にあわせてリハビリテーションを提供しています。

最近姿勢が悪くなった、関節が痛い、転び易くなった等、お身体の悩みは主治医・ケアマネージャーへご相談いただければ、各個人の状態に合わせてリハビリテーションを提供できる体制を整えております。

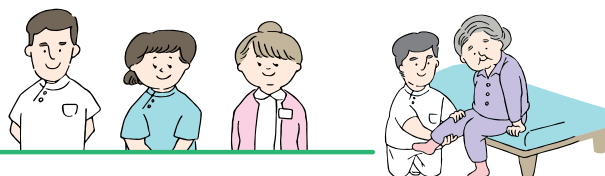
訪問リハビリについて

玄々堂君津病院では介護保険や医療保険を利用した訪問リハビリテーションを行っており、通院が困難な方・外出が困難な方のご自宅に伺いその方の身体状況・生活状況に合わせて実施しています。

実際には関節が硬くなるのを予防するために関節を動かすことや、マッサージ等のベッド上でのリハビリ、ベッドからの起き上がり練習や立ち上がり練習・トイレ動作練習等の日常生活動作練習に加え、歩行が可能な方は歩行練習も行なっております。

訪問リハビリテーションをご希望の場合は担当ケアマネージャーへご相談頂き、君津訪問看護ステーションへご連絡いただければ、ご利用枠の空き状況や今後の手続き等ご説明いたしますので、お気軽にご相談ください。

医療保険の方は外来診察時にスタッフへご相談いただくか、直接君津訪問看護ステーションへお問い合わせください。





副院長就任挨拶

玄々堂君津病院 副院長 工藤 真司

このたび玄々堂君津病院副院長を拝命いたしました、工藤真司です。2012年に東京女子医科大学病院 腎センター外科より玄々堂君津病院へ赴任し、多くの職員に支えられながら診療をしてまいりました。私のモットーは「地味に、地道に、一生懸命に」。日々の診療を誠実に積み重ねることが地域医療を支える力になると信じています。身に余る重責ですが、深い地域愛を胸に、職員を大切にしながら皆さまに信頼される病院づくりに努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

退職医師挨拶



2025年4月に赴任してから、あっという間に1年が経ちました。

この間、非常に仕事のしやすい環境のもとで診療に携わることができ、病院スタッフの皆さまには心より感謝申し上げます。

多くの症例を経験させていただき、専

整形外科 田代 皓一郎 医師

門医としても自信を深めることができた有意義な1年間でした。わずかでも病院に貢献できておりましたら幸いです。

今後も整形外科には昭和大学整形外科学講座の学外研修により常勤医師が赴任いたしますので、引き続きよろしくお願いいたします。

第6回フットケア・足病医学学会学術集会に参加してきました

看護師 フットケア指導士 松林 由紀

今年は医師1名、臨床工学技士2名、看護師1名で参加、発表をさせていただきました。

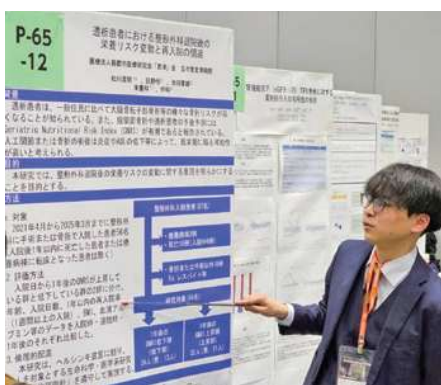
当院は、糖尿病や慢性腎臓病を患っている方が多く、足病変の発症リスクが高いとも言われています。患者さんの大切な足を守るために我々はフットケアを提供できるように日々鍛錬しておりますが、患者さん自身も足を守るためにセルフケアを行うことが大切であることも学びました。医療者と患者さん、その家族が一緒に病気と向き合うことの大切さを学ぶ有意義な時間となりました。



第41回日本栄養治療学会 (JSPEN2026) 学術集会

栄養科 管理栄養士 松川 晃明

2月13日から14日に神奈川県横浜市のパシフィコ横浜で開催された日本栄養治療学会学術集会に参加し、研究発表を行いました。今回の学会のテーマは「Innovation」で、全国の医療機関による新しい栄養管理の取り組みや企業の最新機器について学ぶことができました。また、学生時代の友人や恩師とも再会し、有意義な時間を過ごすことができました。今回得た学びを、今後の栄養管理や患者さんへの支援に生かしていきたいと思



感染対策

コロナム

Vol.2

感染管理認定看護師
看護師長 永塚 藍



春はあたたかさが増し、気持ちも明るくなる季節ですね。当院では、皆さまが安心して過ごせるよう、感染予防の基本である「手指衛生」を大切に行っています。手洗いやアルコール消毒は、病院内での感染を防ぐためにとても効果的です。

また、WHO(世界保健機関)が進める手指衛生の取り組みにも参加し、職員一同、日々丁寧な実践に努めています。5月5日は「WHO手指衛生の日」。この機会に、皆さまと一緒に手指衛生を見直せたら嬉しく思います。

もし職員が手指消毒を忘れていた場面がありましたら、どうぞ遠慮なくお声かけください。皆さまの一言が、より安全な医療環境づくりにつながります。

WHO手指衛生キャンペーン

5月5日は
手指衛生の日



私たちは、大切な皆さまの健康を守るため『感染しない・させない』という想いを胸に、日々の医療に努めています。



掲示期間 5月1日～6月30日
玄々堂君津病院感染制御委員会

4階療養病棟にて「第1回カラオケ大会」を開催しました

ご本人による気持ちのこもった前口上から一曲が始まると、会場は一気に和やかな笑顔に包まれました。温かな手拍子や合いの手が送られ、心地よい一体感が生まれました。全員で「上を向いて歩こう」を合唱すると穏やかな歌声がフロアに広がり、第1回にふさわしい心温まるひとときとなりました。



健診について

新年度になりしばらくすると健診のシーズンになります。ところで、健診と検診の違いはご存じでしょうか？「健診」は、自分の体が健康であるかどうかを確認するものであり、「検診」は、癌などの病気がないかどうか特定の病気を調べるものです。今回は「健診」についてひとことお話しさせていただきます。

健診の主な目的は、病気の予防と早期発見、早期治療を通じた健康維持です。個人の健康状態を評

消化器・健診部長 市場 洋

価し、潜在的な健康リスクや疾患を早期に発見し、適切な対策や治療を行うために行われます。生活習慣病といわれている高血圧や脂質異常症(高脂血症)、糖尿病などは初期には症状はなく、放っておくと動脈硬化による心筋梗塞や狭心症、脳卒中や腎不全などの重い合併症を引き起こす可能性があります。健康ブームが続く中、これを機会に健康診断に興味を持ち、ご自身の健康への意識を高めてみてはいかがでしょうか。

玄々堂君津病院 各お問い合わせ番号 月曜日～土曜日(祝日は除く)

玄々堂君津病院
0439-52-2366
代表

外来診療予約
0439-52-7068
診療予約・予約変更
9:00～16:00

地域連携室
0439-52-2457
医療機関からの患者さんご紹介
9:00～17:00

玄々堂木更津クリニック
0438-53-7807
代表

